

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科
 2025 年度春学期入学試験
 アカウンティングスクール(会計専門職専攻)B 方式(筆記試験型)入学試験
 筆記試験問題

財務会計 解答

問題 1 (配点 : 15 点)

採点基準 : 数値は完全一致、勘定科目等文言については部分点あり

(単位 : 円)

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
(1)	未収入金	12,000,000	売買目的有価証券 有価証券売却益	11,000,000 1,000,000
(2)	繰越利益剰余金	1,345,000	利益準備金 未払配当金 別途積立金	95,000 950,000 300,000
(3)	諸資産 のれん	2,000,000 100,000	諸負債 資本金 資本準備金	1,100,000 500,000 500,000
(4)	売掛金 為替差損	2,500 1,800	為替差益 買掛金	2,500 1,800
(5)	資本金 利益剰余金 のれん	1,000,000 500,000 150,000	S 社株式 非支配株主持分	1,200,000 450,000

問題 2 (配点 : 15 点)
採点基準 : 完全一致

本支店合併損益計算書

(単位 : 千円)

I	売上高		(1,704,750)
II	売上原価		
1.	期首商品棚卸高	(171,000)	
2.	当期商品仕入高	(1,098,000)	
	合 計	(1,269,000)	
3.	期末商品棚卸高	(189,000)	(1,080,000)
	売上総利益		(624,750)
III	販売費及び一般管理費		
1.	営業費	(437,950)	
2.	貸倒引当金繰入	(9,000)	
3.	減価償却費	(30,000)	(476,950)
	当期純利益		(147,800)

本支店合併貸借対照表

(単位 : 千円)

現金預金	(241,400)	買掛金	(298,575)
売掛金	(340,500)	資本金	(300,000)
貸倒引当金	(△17,025)	利益剰余金	(264,800)
商品	(189,000)		
(前払費用)	(19,500)		
備品	(165,000)		
減価償却累計額	(△75,000)		
	(863,375)		(863,375)

問題 3（配点 10 点）

採点基準：部分点あり

リース取引はファイナンス・リース取引とオペレーティング・リース取引に分類される。解約不能とフル・ペイアウトの要件を満たすリース取引は、ファイナンス・リース取引であり、実質的には固定資産を割賦購入した場合と同じなので、売買取引として処理する。ファイナンス・リース取引以外のリース取引は、オペレーティング・リース取引であり、賃貸借取引に準じた会計処理を行う。

問題 4（配点 10 点）

採点基準：部分点あり

親会社の子会社に対する投資額は、親会社の貸借対照表では、「子会社株式」として表示される。子会社株式勘定は、子会社の資本に対する親会社の所有権（持分）を意味する。また、親会社の投資額は、子会社の貸借対照表では、資本として表示される。P社とS社の個別貸借対照表をそのまま単純合算すると、投資（S社株式）と資本とが二重計上されることになる。この二重計上を解消するため、親会社の子会社に対する投資とこれに対応する子会社の資本とは、連結計算上相殺消去しなければならない。

管 理 会 計 解 答

問題 5

KG 社は、単一工程単純総合原価計算によって製品製造原価の計算を行っており、月末仕掛品原価は先入先出法により計算している。次の〔資料〕に基づいて、月末仕掛品原価、当月完成品総合原価、および完成品製造単価を求めなさい。なお、正常減損はすべて工程の始点で発生したものであり、正常減損度外視法で計算する。(配点 10 点)

採点基準：完全一致

〔資料〕

1. 生産データ

月初仕掛品	400 個	(0.75)
当月投入量	<u>800 個</u>	
合 計	1,200 個	
正常減損	100 個	
月末仕掛品	<u>200 個</u>	(0.5)
完成品	<u>900 個</u>	

2. 金額データ

月初仕掛品原価	
直接材料費	32,000 円
加工費	36,000 円
当月製造費用	
直接材料費	56,000 円
加工費	84,000 円

- ・ 仕掛品に付記している () 内の数値は加工進捗度である。
- ・ 材料はすべて工程の始点で投入される。

〔解答〕

	月末仕掛品原価	当月完成品総合原価
直接材料費	16,000 円	72,000 円
加 工 費	12,000 円	108,000 円
合 計	28,000 円	180,000 円

完成品製造単価	@	200 円
---------	---	-------

問題 6

当社では標準原価計算を行っている。次の〔資料〕に基づいて、パーシャル・プランによる仕掛品勘定を作成し、差異分析を行いなさい。なお、能率差異は標準配賦率により計算すること。（配点：10 点）
採点基準：完全一致

〔資料〕

1. 標準原価カード

標準原価カード			
費目	標準消費量	標準価格	金額
標準直接材料費	5kg	×	@400 円 = 2,000 円
	標準直接作業時間		標準賃率
標準直接労務費	3 時間	×	@400 円 = 1,200 円
	標準直接作業時間		標準配賦率
標準製造間接費	3 時間	×	@600 円 = 1,800 円
製品 1 個あたりの標準原価			5,000 円

2. 生産データ

月初仕掛品	100 個	(40%)
当月投入	800 個	
合計	900 個	
月末仕掛品	200 個	(80%)
当月完成品	700 個	

3. 公式法変動予算

変動費率	@200 円
月間固定費	1,200,000 円
基準操業度（直接作業時間）	3,000 時間

4. 実際原価データ

実際直接材料費	1,330,000 円 (3,800kg)
実際直接労務費	1,100,000 円 (2,500 時間)
製造間接費実際発生額	1,800,000 円

- ・仕掛品に付記している（ ）内の数値は加工進捗度である。
- ・材料はすべて工程の始点で投入される。

〔解答〕

仕掛品		(単位：円)	
月初仕掛品原価	(320,000)	完成品製造原価	(3,500,000)
直接材料費	(1,330,000)	原価差異	(170,000)
直接労務費	(1,100,000)	月末仕掛品原価	(880,000)
製造間接費	(1,800,000)		
	(4,550,000)		(4,550,000)

(注) 金額の後の〔 〕内には 有利 または 不利 と記入すること。

価格差異	(190,000) 円 [有利]	数量差異	(80,000) 円 [有利]
賃率差異	(100,000) 円 [不利]	時間差異	(16,000) 円 [不利]
予算差異	(100,000) 円 [不利]	操業度差異	(200,000) 円 [不利]
能率差異	(24,000) 円 [不利]		

問題 7

次の(1)～(5)の記述のうち、下線部に当てはまる最も適切な語句を語群から選び、その記号を解答欄に記入しなさい。
(配点10点)

採点基準：完全一致

- (1) 帳簿棚卸高と実地棚卸高の差を棚卸減耗という。棚卸減耗が正常な原因による場合、その棚卸減耗費は、_____で処理する。

語群： (A) 直接材料費 (B) 間接材料費 (C) 直接経費 (D) 間接経費

- (2) 総合原価計算において、工程始点で正常減損が発生する場合、その正常減損費は_____に負担させる。

語群： (A) 完成品と月末仕掛品 (B) 完成品 (C) 月末仕掛品

- (3) 標準原価計算の製造間接費の差異分析において、_____は、作業効率の良否を判定するために使われる。

語群： (A) 予算差異 (B) 操業度差異 (C) 能率差異 (D) 数量差異

- (4) 複数の代替案の中から一つの案を選択する意思決定において、代替案間で発生額が変わらない原価のことをいう。

語群： (A) 差額原価 (B) 機会原価 (C) 無関連原価 (D) 実際原価

- (5) 活動基準原価計算(ABC)では、各活動に対して、できる限り関連性が高い活動ドライバーを選択することが重要である。例えば、検査活動の原価に対して、下記の語群の中で最も関連性が高い活動ドライバーは_____である。

語群： (A) 検査回数 (B) 検査時間 (C) 検査員の人数

〔解答〕

(1)	(D)
(2)	(A)
(3)	(C)
(4)	(C)
(5)	(B)